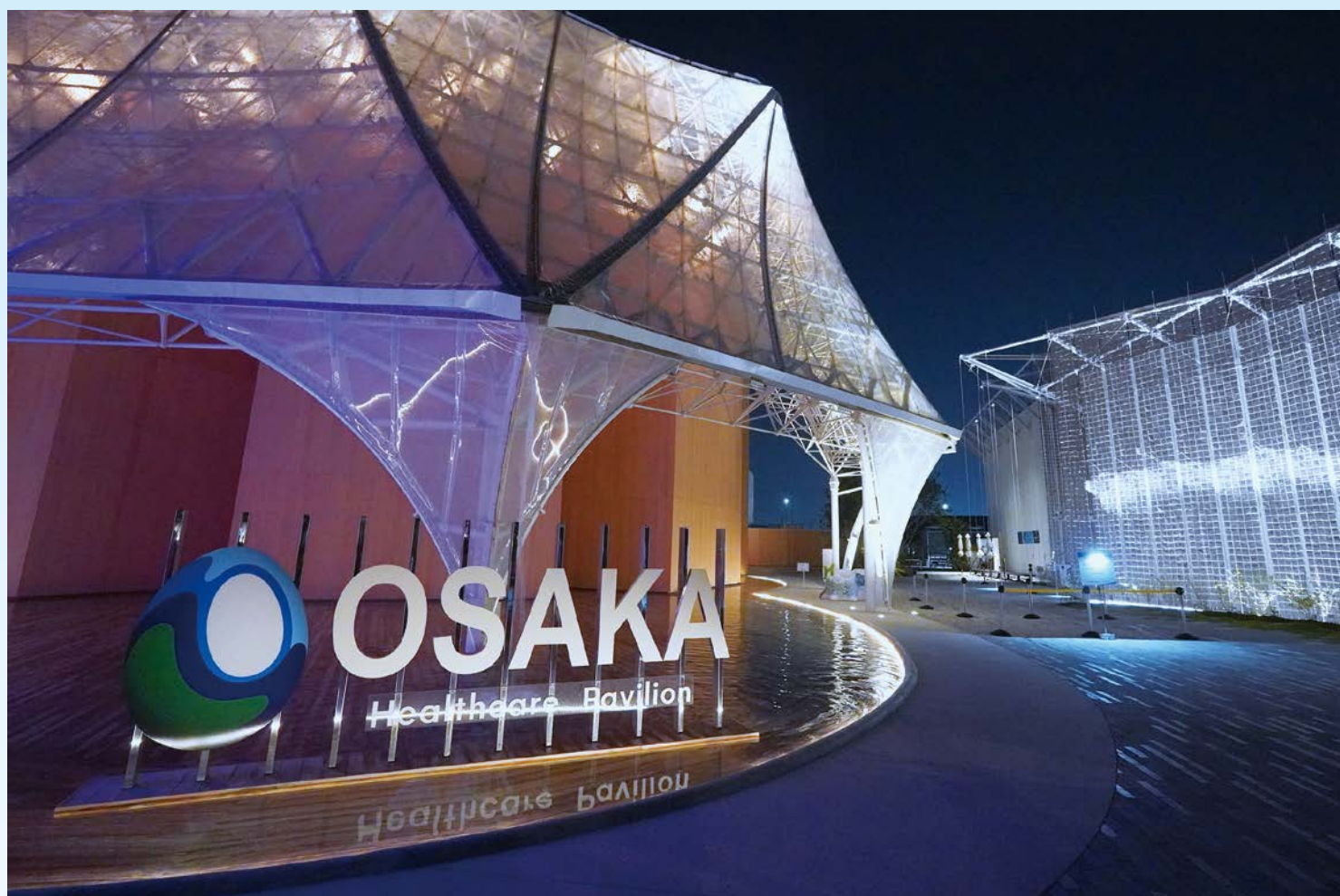


DAIKUEI

Vol.97



一般
社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

機関誌 第97号(夏季号)

〔目 次〕

巻頭言（北村広外志会長）	1	第2回フットサル大会を開催	11
第52回 定時総会を開催	2	「優秀建設施工者」で協会推薦者受賞	12
令和7年度 事業計画	4	青年部会・なでしこ設備会活動だより	12
令和7年度 理事業務分担	5	空調設備ニュース	14
専門委員・青年部会等の紹介	6	衛生設備ニュース	18
新入社員研修を実施	7	ボウリング大会を開催	20
日空衛 第77回定時総会を開催	9	告知板（賛助会員募集・行事予定）	21
日空衛「実践スローガン」	9	暑中ご挨拶（会員・賛助会員一同）	22
日空衛 近畿支部会を開催	10	編集後記	24

（表紙写真）

大阪ヘルスケアパビリオン

本パビリオンは、大阪の新たな成長（REBORN）を象徴し、多様な屋根を「膜」と「水」で構成。
外壁やアトリウムには大阪府内産の木を使用し、膜屋根には循環する水を流すことで、環境と共生する空間を創出。
すべての来館者が同じルートを体験できる人にやさしい建築となっている。
大阪・関西万博は、10月13日まで開催中

ご

挨拶

拶



会 長 北 村 広外志

会員及び賛助会員の皆様には、日頃より当協会の活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
昨年は、元旦の能登半島地震に続き、8月に発生した日向灘地震では南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されるなど、巨大地震への警戒が高まった年でもあり、今後も引き続き予断を許さない状況にあります。

国内においては、ウクライナ情勢の影響もあり、エネルギー危機や物価高騰等が国民生活を直撃するとともに、我が国の経済は、外需の大幅な減少、円安等により、厳しい状況が続いておりましたが、経済対策や補正予算等の効果が相まって、株価の高値や賃上げ等、明るい兆しがみられるようになりました。

一方、建設業界においては、建設費の高騰や深刻な人材不足により、一部の商業施設や工場等において、建設が計画通りに進まないケースが見受けられます。

また、トランプ氏の米国関税政策による国内経済への影響を想定し、民間設備投資の計画変更等も懸念されるところです。

そのような中、国土交通省は、令和7年度予算において、約5兆2千7百億円に上る前年度並みの公共事業費の確保を図るなど、社会資本の整備に寄与するとともに、安全・安心で豊かな国民生活の実現に資することが期待されるところです。

さて、昨年4月から適用の罰則付き時間外労働の上限規制から、既に1年4か月が過ぎておりますが、会員各社におかれては、「働き方改革」のより一層の推進に取り組まれていることと存じます。

具体的には、ICTの活用による施工の省力化技術の一層の普及や長時間労働を余儀なくされる現場における業務の効率化、合理化に寄与するバックアップ体制の確立等、長時間労働改善に向けた生産性向上への一層の取り組みと共に、元請けのゼネコン等の協力も必要であります。

そこで、昨年9月に日本空調衛生工事業協会が日本電設工業協会と共同で「働き方改革の推進に関するお願い」を公表し、適正工期の確保及び工程の遵守、長時間労働の是正、対等な契約関係の構築の実現に向け、公的発注機関や発注者、ゼネコン、各諸団体等への要請活動が展開されています。

日本空調衛生工事業協会近畿支部としまして、大阪建設業協会と日本建設業連合会関西支部に対し、日本電設工業協会関西支部と共同で「働き方改革の推進に関するお願い」を行ったところ、両団体からは、適正工期確保に向けてお互いに協力して取り組むとともに、会員にも周知していきたいとの回答がありました。

また、働き方改革の要ともいえる「労務費の適正確保」については、国において、労務費に関する基準やその実効性確保策のあり方等について、専門団体等の意見を踏まえ鋭意、検討が進められているところでもあります。

引き続き、国の動向を注視するとともに、ゼネコン等民間発注業者の対応にも注目してまいります。

今後も、日空衛本部と緊密に連携を図りながら、関係団体と協力して「働き方改革」を推し進めてまいりたいと存じますので、会員各位におかれては、「働き方改革」のより一層の取り組みをお願い申し上げます。

また、空調衛生工事業界としまして、生産性向上における先進的な取組を普及させ、カーボンニュートラル（CN）の実現に向けた省エネ・省CO₂の最先端技術を駆使した「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」の普及促進等、先導的役割を担い、業界としてのプレゼンスを更に高めていく必要があります。

そのためにも、当協会は、空調衛生工事業が魅力ある産業であることをこれからも発信してまいります。

結びに、会員及び賛助会員の皆様の益々のご発展とご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

第52回 定時総会開催

「働き方改革」のより一層の推進及び長時間労働の改善に向けた 業務・生産性の向上への更なる取組み 令和7年度の事業計画・予算など決定



挨拶する北村会長

総会会場(全体)

一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会の第52回定時総会は5月13日(火)、大阪市中之島のリーガロイヤルホテルで開催し、諸官庁との懇談会、配管技能コンテストの実施、青年部会及びなでしこ設備会による各種研修事業の実施等、令和7年度の事業計画を決定した。

定時総会は定刻午後3時30分、林寿二専務理事の司会で始まり、総会出席者数が定款第20条の規定の定足数を満たしているため、本総会が有効に成立していることを報告した。

続いて、挨拶に立った北村広外志会長は、『「働き方改革」をより一層、推進しICTの活用による施工の省力化技術の普及と長時間労働の業務の効率化や合理化に寄与するバックアップ体制の確立等、改善に向けた生産性向上への取組みと共にゼネコン等の協力も必要である』と強調した。

定款第19条の規定により会長が議長に就任する旨を述べた。

定款の規定に従い、北村会長が議長に就任し、北村議長は定款第26条の2の規定に基づき議事録署名人として、下記の両名を指名し、会員に諮ったところ全員異議なく了承したので、両名を議事録署名人に指名した。

議事録署名人 平地 秀行

同 藪本 繁明

両名はこれを了承した。

続いて、北村議長は、本日提案の議案内容の説明について、議事進行の都合上、

議事次第の順序を次のとおり一部変更したい旨申し出た。

第1号議案「令和6年度 事業報告の件」と第3号議案「令和7年度 事業計画(案)の件」を

委員会ごとに説明し、次に第2号議案「令和6年度 決算報告の件」、第4号議案「令和7年度 収支予算（案）の件」は事務局より一括して説明を行い、その後、監事から監査報告を行った後に、議案ごとに順次諮っていきたい。

以上について議長が会員に諮ったところ全員異議なく了承された。

議事審議の経過と結果

第1号議案「令和6年度 事業報告の件」

第3号議案「令和7年度 事業計画（案）の件」

各委員会の担当理事が、議案書に基づいて事業報告の件、事業計画（案）の件をそれぞれ説明した。

総務委員会 木村之彦理事

経営委員会 綾目圭志理事

広報委員会 松本晋一理事

技術委員会 西岡 毅理事

労務委員会 福地文雄理事

第2号議案「令和6年度 決算報告の件」

第4号議案「令和7年度 収支予算（案）の件」

林専務理事は議案書に基づいて、第2号議案、第4号議案を説明した。

令和6年度正味財産増減計算書に基づく決算報告は

経常収益	計	43,821,707円
経常費用	計	53,489,284円
当期正味財産増減額	計	△10,364,783円
正味財産期末残高	計	54,359,952円

となる旨を報告した。

次に、令和7年度収支予算（案）について、経常収益計は、43,826,800円、経常費用計は、46,216,520円、予備費1,000,000円を計上した旨を説明した。

「会計監査報告」

樋口清一監事は、令和6年度決算報告について、会計に関する帳簿等関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認める旨を報告した。

北村議長は、前もって承認を得たとおり、第1号議案から第4号議案までを順次会員に諮ったところ、すべて全員異議なく承認された。

第5号議案「役員補欠選任の件」

北村議長は、当協会の理事に就任している河部和生、西岡 毅の2名並びに監事に就任している金子達哉の計3名が企業における人事異動等により理事及び監事を辞任されるため、定款第28条および第31条の規定により、理事2名及び監事1名の補欠選任を会員に諮った。

理事の選任方法について議長に一任されたので、北村議長は理事に中川 修、三宅輝彦の2名並びに監事に大田勝己の計3名を会員に諮ったところ全員異議なく承認された。

以上で第52回定時総会の議事が全て終了したので、北村議長は、午後4時10分閉会を宣言した。

総会終了後、臨時理事会が開催され、副会長（1名）の選定、理事の業務分担（5ページに掲載）が決められた。



この後、午後5時から会員及び賛助会員が参加して山楽の間にて懇親会を盛大に開催した。



業界の発展を祈念して乾杯する城口副会長



懇親会で和やかに交流

令和7年度 事業計画

自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

総務に関する事業

1. 総会及び新年交礼会等の開催
2. 叙勲、褒章並びに大臣表彰等の受賞候補、技能功労者等受賞候補者の推薦を行う
3. 会員従業員の福利厚生面の充実を図るため、スポーツ大会や各種行事を行う
4. 他の部門に属さない事業の運営を図る

経営に関する事業

1. 公共工事の直接発注拡大促進を図る
2. 事業推進のため、諸官庁との「懇談会」の開催、及び関係機関に対し建議陳情を行う
3. (一社)日本空調衛生工事業協会近畿支部会長会議及び近畿支部会を開催し、情報や意見交換を通じて連携を深める
4. 新技術、新商品説明会等を通じて、会員及び賛助会員との交流の促進を図る
5. 建設業団体との交流を通じて情報交換や協力関係を図る
6. 配管、ダクト、保温保冷の三団体との連携を図る
7. 青年部会及びなでしこ設備会による各種研修会等を実施する
8. 社会貢献として、募金活動及び清掃活動を実施する

広報に関する事業

1. 機関誌「DAIKUEI」を年2回発行する
2. ホームページの更新・充実により、情報発信を強化する

技術に関する事業

1. 衛生設備や空調設備の調査・研究、技術ニュースを発行する
2. 登録配管基幹技能者講習、登録ダクト基幹技能者講習の運営に協力する
3. 技能者養成及び未来の技能者育成を目指し、配管工、高校生・専門学校生を対象に、第15回配管技能コンテストを実施する
4. 配管技能検定試験の実技試験運営事務を行う

労務に関する事業

1. 労働災害防止及び労働安全衛生の意識高揚を図り、災害ゼロの明るい職場づくりを進める安全衛生大会を開催し、無災害の優良工事現場の表彰を行う
2. 労働災害の防止を目的に、安全管理活動の促進を図るため安全パトロールを行う
3. 大阪配管高等職業訓練校への助成を行う
4. (一社)大阪電業協会と合同で新入社員研修会を行う

理事業務分担

令和7年5月

(一社)大阪空気調和衛生工業協会

会 長	北 村	広外志	ダイダン株式会社大阪本社
副 会 長 総務・経営担当	城 口	俊 雄	株式会社大阪城口研究所
副 会 長 技術・労務担当	※ 若 林	尚 史	若林設備工業株式会社
副 会 長 広報担当	○ 中 川	修	須賀工業株式会社大阪支社
1. 総務委員会			
委 員 長	木 村	之 彦	木村工業株式会社
副委員長	平 地	秀 行	鳳工業株式会社
理 事	藤 原	和 明	東洋熱工業株式会社大阪支店
2. 経営委員会			
委 員 長	綾 目	圭 志	ダイダン株式会社大阪本社
副委員長	辻	武 寿	株式会社精研
理 事	武 田	和 夫	株式会社テクノ菱和大阪支店
3. 広報委員会			
委 員 長	松 本	晋 一	不二熱学工業株式会社大阪本店
副委員長	橋 本	輝	ダイクウ株式会社
理 事	金 子	昌 史	日比谷総合設備株式会社関西支店
4. 技術委員会			
委 員 長	○ 三 宅	輝 彦	株式会社朝日工業社大阪支社
副委員長	赤 松	孝 宏	高砂熱学工業株式会社関西支店
理 事	永 田	博 巳	三建設備工業株式会社大阪支店
理 事	山 口	武 男	新菱冷熱工業株式会社西日本事業部
5. 労務委員会			
委 員 長	福 地	文 雄	柳生設備株式会社
副委員長	上 杉	晴 一	新日本空調株式会社大阪支店
理 事	勝 野	耕 治	三機工業株式会社関西支社
専務理事	林	寿 二	(一社)大阪空気調和衛生工業協会
監 事	樋 口	清 一	大阪ガス株式会社
監 事	○ 大 田	勝 己	株式会社三冷社西日本支社

(○)新任役員 ※業務分担の変更役員)

令和7年度 専門委員の紹介

安全労務専門委員

○安全衛生大会の企画・運営 ○安全パトロール	新原 辰美 (新日本空調(株)大阪支店)	香束 昌信 (日比谷総合設備(株)関西支店)
	宮地 直人 (株朝日工業社大阪支社)	堤 英治 (須賀工業(株)大阪支社)
	佐藤 直人 (三機工業(株)関西支社)	

技術専門委員

○空調部会・衛生部会に分かれ、技術ニュースを発行	空調部会	香川 芳範 (ダイダン(株)大阪本社)	辻 晴亮 (三機工業(株)関西支社)
		吉田 則章 (株朝日工業社大阪支社)	山口 淳志 (高砂熱学工業(株)関西支店)
		樫本 恭佑 (新菱冷熱工業(株)西日本事業部)	
	衛生部会	三輪 晃洋 (須賀工業(株)大阪支社)	瀧口 佳典 (三機工業(株)関西支社)
		武田 博義 (株西原衛生工業所大阪本店)	新保東輝彦 (株朝日工業社大阪支社)
		原田総一郎 (大阪工業技術専門学校)	

広報専門委員

○ホームページ管理、機関紙「DAIKUEI」の発行	柊 彰 (株精研)
	金谷 泰久 (日比谷総合設備(株)関西支店)

経営専門委員

○経営委員会活動のサポート、府下市町村へ分離発注の陳情等	石原 真典 (株テクノ菱和大阪支店)
	池田 良照 (株精研)
	今井 健太 (ダイダン(株)大阪本社)

令和7年度 青年部会の紹介

会員 23 名

会 長	大東 一弘 (不二熱学工業(株))	顧 問	長元 伸吾 (ダイダン(株))
副 会 長	佐野 龍 (若林設備工業(株))		
〃	石原 真典 (株テクノ菱和)		
〃	佐野 文則 (株大阪城口研究所)		
総 務 委 員 会	委員長 今井 健太 (ダイダン(株))	定時総会、安全衛生大会、新年交礼会の運営	
実 務 委 員 会	委員長 根間 啓史 (東洋熱工業(株))	研修会、工場見学会	
交 流 委 員 会	委員長 池田 良照 (株精研)	野球大会、ボウリング大会、フットサル大会の運営、レクリエーション活動	
福 祉 委 員 会	委員長 土肥 孝輔 (株日設)	募金活動、日赤等へ寄付活動、クリーンUP	
働 き 方 改 革 委 員 会	委員長 福谷 篤正 (新菱冷熱工業(株))	建設業界における働き方改革について協議を行う	

令和7年度なでしこ設備会の紹介

会員 13 名

会 長	伊藤 沙也香 (株大阪城口研究所)
副 会 長	岸田 莉央 (須賀工業(株))
〃	川本 菜月 (株精研)

令和7年度新入社員研修を実施

経営者、先輩から幅広い知識習得



当協会は、毎年恒例となっております（一社）大阪電業協会と合同の令和7年度新入社員研修を開催しました。

講師は、両協会所属会社の経営者や経験豊富な熟練社員、入社数年の社員が担当しました。

講義内容は、社会人に求められる基本姿勢からビジネスマナー、営業の方法、安全知識、熟練社員の体験談まで幅広い分野に及び、研修に参加された新入社員は、諸先輩が語る講義に熱心に聞き入っていました。

業務ご多忙の中、講師として登壇下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

◇開催日時 令和7年4月3日(木)、4日(金)
両日のうち1日受講
10:00 ～ 17:00

◇会場 エル・おおさか南館5階南ホール

◇受講者数 86名（内当協会6社16名）

◇◇◇当協会からの講師(敬称略)◇◇◇◇

【経営者による講話】

（仕事とは、人生の目的・意義、どのような生き方をするか、素晴らしい人生を送るため他）

木村工業(株)

代表取締役社長 木村 之彦

【3～5年目社員の講話】

（入社後から現在まで、仕事での失敗談、社会人になって大切だと思う事他）

鳳工業(株)設備事業部設備部設備事業所

齊藤 貴広

【営業に関する講話】

（建設業における営業職と一般的な営業職との違い他）

不二熱学工業(株)大阪本店

営業部主任 大東 一弘

【工事に関する熟練社員の講話】

（現場責任者の今、現場担当者の頃の自分に対し思う他）

東洋熱工業(株)大阪支店技術第一部

工事第一課担当課長 八板 直輝

建設現場の土日閉所の実現、CN行動計画の更なる推進

日本空調衛生工事業協会（藤澤一郎会長）は5月20日、東京都千代田区の帝国ホテルで第77回定時総会を開催した。

冒頭、藤澤会長は、「昨年策定した働き方改革の行動計画に基づき、新築現場の土日閉所運動を推進するとともに、CN推進へ向けての会員の一層の尽力をお願いする」と要請した。

総会では、令和6年度事業報告・決算報告に続いて、令和7年度の事業計画・予算を決定した。このあと、令和7年度業界実践スローガンを原案通り決議した。

また、総会で役員の改選を行い、藤澤会長の再任を含め、理事の一部交替に伴う第42期（令和7年度）の役員の業務分担を決めた。



藤澤会長



令和7年度業界実践スローガン

われわれ空調衛生工事業は、生活環境の改善、産業分野の環境創造、防災機能の強化とともに、地球環境の保全を担う産業としての誇りを持ち、優れた技術と品質の確保により、持続可能な社会への貢献、魅力ある空調衛生工事業への挑戦に向け、一致団結して次のスローガンの実践にあたろう。

1. 地球温暖化対策の先導役として、建物のライフサイクルでCO₂の排出削減に取り組み、空調衛生工事業の技術力でカーボンニュートラルの実現に貢献しよう
 2. 適正な工期の確保、施工現場の4週8閉所の拡大・定着等の働き方改革を進め、新4Kの実現により、未来を担う多様な人材の確保を図ろう
 3. BIMの活用等建設DXを推進するとともに、人材の育成を進め、生産性の向上を図ろう
 4. 法令の遵守と人権への配慮により、社会的信頼の確保に努める事業運営を徹底しよう
 5. 直接発注（分離発注）等の適切な発注方式を推進するとともに、建設業法の許可業種区分について、「機械設備一式工事」または「空調衛生工事」の実現を目指そう
- 以上、決議する。
- 令和7年5月20日

日空衛 近畿支部会を開催

適正工期・長時間労働の是正等、取組み確認

日本空調衛生工事業協会（日空衛）の近畿支部（北村広外志支部長）は2月13日、大阪市中央区のシティプラザ大阪で令和6年度近畿支部会を開催し、最近の日空衛の活動などを確認した。

支部会には本部から高橋広幸専務理事を含め、団体・企業会員ら35名が出席。開会挨拶で北村支部長は、大要、次のとおり述べた。

◇昨年の支部活動では、近畿支部会長会議で、各空衛協会の活動について、活発に意見交換を行った。

◇近畿支部経営委員会と近畿地方整備局営繕部との懇談会では、『労務賃金の引上げ』、『建築でマスター工程を遵守できない場合の対応』、『技術者不足に対応した発注方式』等について、活発に意見交換を行った。

◇「働き方改革」推進に向け、日空衛等による発注者等への要望活動を受け、当支部も

日本電設協関西支部と共同で日建連関西支部及び大阪建設業協会へ適正な工期の確保等の要望を行なった。

◇会員においては、「働き方改革」の一層の取組をお願いする。

引き続き、高橋専務理事が「最近の日空衛の活動について」と題して、以下の取り組みなどを紹介した。

◇建設業の働き方改革の推進

◇空調衛生工事業のCN行動計画

◇建設キャリアアップシステムの取り組み

◇建設分野における特定技能制度の概要他

終了後の懇親会では、来賓の国土交通省近畿地方整備局営繕部設備技術対策官の那須大輔様から挨拶をいただき、日空衛・藤澤一郎会長の発声で乾杯し、支部活動について忌憚のない意見を交換し合い親睦を図った。



挨拶する北村支部長



日空衛の活動を報告する高橋専務理事



支部会の会場全体



活発な意見交換の懇親会



第2回大会の優勝は因幡電機産業(株)

優 勝	因幡電機産業(株)	準優勝	日比谷総合設備(株)
第3位	(株)朝日工業社	第4位	新日本空調(株)
第5位	(株)川本製作所	第6位	東洋熱工業(株)

最優秀選手賞 因幡電機産業(株) 石川 玲 選手
敢 闘 賞 日比谷総合設備(株) 小室 秀徳 選手

第2回フットサル大会は、令和7年2月25日(火)に、室内冷暖房完備のセレッソフットサルパーク福島にて開催されました。試合方式は前回同様、ランダムリーグ戦方式(1チーム5試合)を採用し、上位6チームによる順位決定戦が行われました。全22チーム(総勢273名)が参加し、全試合が白熱し、盛り上がりを見せた1日となりました。開会式では若林副会長が登壇し、「くれぐれも怪我のないように盛り上がる第2回大会となるように」と参加者に呼びかけました。

その後、第1回優勝の(株)朝日工業社による優勝シャーレの返還式が行われ、トロフィーの重みと大会の伝統がしっかりと引き継がれていることを感じさせる印象的な場面となりました。

青年部・長元会長からは、「怪我に関しては十分気を付けること」との注意喚起があり、大会運営・注意事項について説明が行われた後、いよいよ試合が開始されました。閉会式では林専務理事より、優勝チームから第6位までのチームに対し、優勝シャーレやトロフィー、表彰状などが授与されました。さらに、セレッソ大阪応援ナビゲーターによる応援パフォーマンスが行われ、観客席からは自然と手拍子が起こり、会場は和やかで楽しい雰囲気に包まれました。続いて開催された

「セレッソ大阪クイズ大会」では、チーム対抗で白熱した回答合戦が繰り広げられ、子どもから大人まで楽しめる内容で、会場全体が一体となって盛り上がる場面が多く見られました。

その後、セレッソ様よりご提供いただいたサイン入りユニフォームやセレッソ大阪のグッズ、選手のサインが当たる大抽選会が開催されました。くじ引きは青年部・長元会長が行い、各チームに景品が行き渡る方式で、会場は大いに盛り上がりました。

林専務理事の閉会挨拶では、参加者の健闘を称えるとともに、大会を通じて正会員・賛助会員の交流が深まったことへの評価が述べられました。接触が多く、怪我のリスクも高いスポーツであるため、審判団にはラフプレーへの厳格な対応をしていただきました。

第1回大会に続く第2回大会も、審判団および青年部会の皆様の尽力により、運営・進行ともに円滑に行われ、無事終了することができました。関係各位には心より感謝申し上げます。

今後も第3回大会の開催を期待する声が多く寄せられています。

今後も会員同士の交流と親睦の場として、引き続き開催を継続していきたいと思いをします。



大会挨拶 若林副会長



第一回優勝(株)朝日工業社シャーレ返還



団体表彰優勝 因幡電機産業(株)



大会MVP 因幡電機産業(株)



セレッソ大阪パフォーマンス



閉会挨拶 林専務理事

令和6年度「優秀建設施工者」大阪府知事表彰

協会推薦の池元氏、塩崎氏が受賞

大阪府の令和6年度「優秀建設施工者」表彰式が、令和7年2月6日に大阪府庁本館5階正庁の間で行われ、25名（熟練工部門17名・青年部門8名）が表彰され、当協会推薦の2人が知事表彰を受けました。

熟練技能者表彰は平成6年度から、青年技能者表彰は平成27年度から実施されているもので、当協会、大阪建設業協会などの建設関連団体が配管工、ダクト工、熱絶縁工、鉄筋工、左官工、大工、電気工など各職種の優秀施工者を推薦し、

大阪府が表彰しているものです。

式典では、大阪府知事表彰実行委員会を代表して当協会の北村広外志会長が挨拶し、続いて森岡武一大阪府副知事が挨拶し、森岡副知事から受賞者25名に表彰状が授与されました。

当協会から推薦した近畿ダクト工事業協同組合所属企業の土井池設備工業㈱の池元 功氏（ダクト工）が熟練工部門で、同協会所属企業の㈱樂の塩崎雅和氏（ダクト工）が青年部門で、それぞれ大阪府知事表彰を受賞しました。



池元 功氏(熟練工部門)(右)北村会長(左)



塩崎雅和氏(青年部門)(右)北村会長(左)

青年部会・なでしこ設備会 活動だより

青年部会 日本赤十字社に10万円寄付

青年部会（長元伸吾会長）は、協会行事や部会活動を通じて募った10万円を日本赤十字社に寄付した。

この日本赤十字社への募金活動は「何らかの活動を通じて社会に貢献したい」という青年部会の発案で行われているもので、今回で16回目。

3月14日、当協会経営委員長の綾目圭志理事と長元会長他2名ら青年部会が大阪市中央区の日本赤十字社大阪府支部を訪れて寄付した。

贈呈式では、綾目委員長から西野栄次事務局長に寄付金目録が手渡された。歓談では、綾目委員長は、「長年にわたり取り組み続け、今回で16回目と成りました。これからも継続していきたい」と述べた。それに対して、西野事務局長からは、「建設業界は今、大変忙しいと聞いていますが、そのような中でも欠かさず心遣いを頂き本当に有り難い」と感謝の言葉を述べた。



募金を手渡す綾目委員長（右）



歓談風景

青年部会・なでしこ設備会合同での工場見学会

会場：積水化学工業(株) 滋賀栗東工場

令和7年3月7日(金)青年部会となでしこ設備会合同で工場見学会を実施しました。今年は積水化学工業(株)様にご協力いただき配管製品の工場を訪問させていただきました。

こちらの工場では生産ラインだけでなく様々な実験が行える施設も併用されたつくりとなっています。午前中は単管式排水システム実験、耐火VP配管の燃焼実験、エスロハイパーの製品説明と各種実験、メタキュットREDの4種の実験に立ち会いました。特に興味深かったものは、単管式排水システムの実験です。工場施設内に17階の高さの実験施設があり、そこからさまざまな条件で排水を行いトラップの水量の変位や排水の流れ方について見学しました。透明パイプ部から水の流れを見ることができ継手の溝に沿って配管内で渦を巻くように流れる様、また末端部での水の流れを観察することができました。普段見ることでできない排水の流れを直接観察することができシス

テムや製品の認識を深めることができました。

午後からは生産工場と展示室の見学をしました。主力製品の塩ビ配管については押出成形ラインだけでなく、集積や搬出まで自動化されており工場内には人の姿がほとんどありませんでした。これらの機器の導入は作業人の経験年数に関係なく均一製品の作成だけでなく業務効率や働き方改革にも寄与していると感じました。展示室の見学では、配管の施工模型以外にも、FRP (Fiber Reinforced Plastics) による合成まくらぎや、カルムーンシートなどの防音材の展示もあり配管製品だけでなく技術力について学ぶことができました。

このような活動は、普段の自身の仕事を顧みる良い機会でした。今後も業界の価値向上に向けて活動を継続してまいります。この度、見学に際し協力いただきました積水化学工業(株)関係各位に感謝申し上げます。



説明を受ける参加者



参加者全員で記念撮影



工場見学風景



工場見学風景

空調設備ニュース 05

air conditioning news 2025.May

No.046

□ 機器 □ タクト ■ 配管 □ 換気
□ 排煙 □ 自動制御 □ 他

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

アルミ冷媒管について

○はじめに

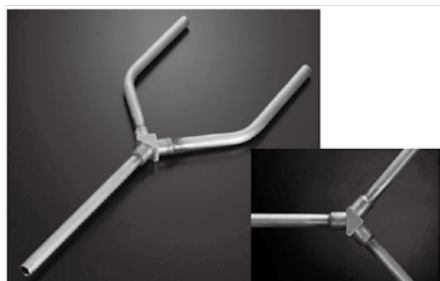
空調用の冷媒配管のほとんどは銅管を使用していますが、電子機器分野における銅素材の需要増加に伴い価格の高騰、供給体制の不安があります。また施工現場での作業員の担い手問題から省人化、省施工が求められています。これらの課題を解決するためのひとつとしてアルミ冷媒管を使用する新たな技術提案がされています。2018年1月にはアルミ配管の普及を目的としたアルミ配管設備工業会が設立され規格の整備を行っています。

○アルミ冷媒管の規格

適用されるアルミ冷媒管はアルミ配管設備工業会で規定される冷媒用被覆アルミニウム合金管（APEA1001:2021）を用います。機械式継手はAPEA2001:2020で規定されています。



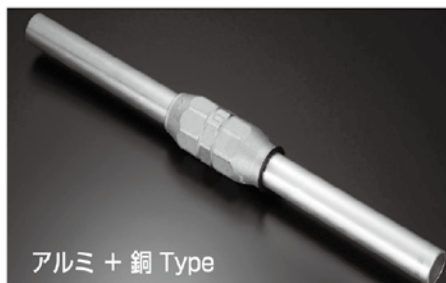
コイル管および直管（保温厚10mm、20mmの2種類）



アルミ冷媒管用分岐管ユニット



アルミ + アルミ Type



アルミ + 銅 Type

機械式継手（銅からアルミへの変換も可能）

○アルミの長所

アルミには以下のような長所があります。

①安価である

銅は希少で30年前後で枯渇するリスクがありますが、アルミは豊富に存在するため価格が安定しており安価です。

②軽量である

アルミの比重は銅の約3分の1で軽量です。

③耐食性にすぐれている

アルミは銅と同等のフロン系冷媒に対する耐久性があります。

④強固な酸化被膜が存在する

強固な酸化被膜があるため、ろう付け時の窒素置換が不要です。

⑤リサイクル率が高い

アルミ管の生産には銅管と比べて多大なエネルギーを使います。しかし融点が低いため、リサイクルには最適な材料でリサイクル率が85%を超えるとCO2発生量30%削減につながると言われています。（表1参照）

表1 リサイクル時のCO2排出量

	銅管 (再生地金約45%)	アルミ管 (再生地金85%)	CO2排出量 削減率(%)
サイズ (mm)	①CO ₂ 排出量 (kg/m)	②CO ₂ 排出量 (kg/m)	(1-②/①)×100 削減率(%)
6.35	0.224	0.122	45.5%
9.52	0.351	0.257	26.6%
12.70	0.478	0.438	8.3%
15.88	0.748	0.662	11.5%
19.05	0.908	0.486	46.4%
22.22	1.067	0.641	39.9%
25.40	1.226	0.812	33.7%
28.58	1.387	1.022	26.4%
31.75	1.695	1.233	27.3%
38.10	2.137	1.723	19.4%
		平均値	28.5%

アルミの「軽量」という特徴を生かした場合、施工面で以下のメリットがあります。

- ・配管吊り支持間隔の拡大
 - ・配管取り付け及び運搬作業時間の作業員の負荷低減
- 各配管の支持間隔の例を表2、表3に示します。

表2 冷媒用アルミ合金管の支持間隔（横走管）（APEA3001:2020より抜粋）

管径(mm)	6.35	9.52	12.70	15.88	19.05	22.22	25.40	28.58	31.75	38.10
支持間隔(m)	1.5	2.0	2.5							

表3 冷媒用銅管の支持間隔（横走管）（日空衛ガイドブックより抜粋）

管径(mm)	6.35	9.52	12.70	15.88	19.05	22.22	25.40	28.58	31.75	38.10
支持間隔(m)	1.5			2.0						

これらの利点を生かし施工実験をおこなったところ施工時間が約20%短縮になるという報告があります。

○アルミの短所

アルミには以下のような短所があります。

①強度が劣る

アルミの引張強度は105N/mm²、銅は205N/mm²とアルミは銅の約2分の1です。

②融点が低い

アルミの融点は約660℃、銅は約1080℃とアルミは融点が低いです。

（リサイクルの観点からは長所になります。）

アルミの「強度が劣る」ということに対して以下の対策が取られています。

銅管と同様の強度を得るために配管の肉厚を厚くする必要があります。

同じ外径の配管では肉厚が厚くなるので内径が小さくなり、断面積が減少します。（表4参照）

そのため同サイズの配管を選定した場合、アルミの方が圧力損失が大きくなり、パッケージエアコンの能力に影響を与えます。その対応としてアルミ配管工業会で規定された配管選定を行うことで、銅管を使用した場合と同等の冷暖房能力を確保することができます。

表4 アルミ管と銅管の配管内径の比較

外径 (mm)	アルミ			銅			アルミ/銅 断面積比 (%)
	材質 質別	肉厚 (mm)	内径 (mm)	材質 質別	肉厚 (mm)	内径 (mm)	
6.35	A3003 -O	0.85	4.65	C1220 -O	0.80	4.75	96
9.52		1.15	7.22		0.80	7.92	83
12.70		1.50	9.70		0.80	11.10	76
15.88		1.80	12.28		1.00	13.88	78
19.05	A6063 -T83	1.05	16.95	C1220 -1/2H	1.00	17.05	99
22.22		1.15	19.92		1.00	20.22	97
25.40		1.30	22.80		1.00	23.40	95
28.58		1.45	25.68		1.00	26.58	93
31.75		1.55	28.65		1.10	29.55	94
38.10		1.85	34.40		1.35	35.40	94

アルミの「融点が低い」ということに対して以下の注意点があります。

ろう付施工時に母材の温度管理がされない場合、母材に穴をあけてしまうことがあります。

作業場所の温度、湿度を考慮した適切な加熱時間や1点に集中した加熱を防止する必要があります。

また強固な酸化被膜が存在するため、酸化被膜を容易に除去できるアルミ専用のフラックスを使用しなければなりません。

メカニカル継手を使用した場合は、施工方法も銅管とほぼ同じなので安定した施工が可能です。

※出典：（社）アルミ配管設備工業会 アルミ冷媒管システム
東尾メック（株） 冷媒用被覆アルミニウム合金管用ねじ接合継手カタログ

空調設備ニュース 06

air conditioning news 2025.Jun

No.047

■機器 □ダクト □配管 □換気
□排煙 □自動制御 □他

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

ファンベルトについて

〇はじめに

空調用・産業用送風機のVベルトは、摩擦力を利用して動力を伝達する機械要素の一つであり、駆動側プーリと従動側プーリと組合せて使用されます。プーリとのくさび効果によって高い伝動能力を発揮し、適切な張力がかかっている場合は高い伝動効率を得られます。ここでは、各種Vベルトの種類と特性について述べ、点検・整備において特に重要な張力管理についての説明、省エネ・省メンテのベルトシステムの紹介をします。

〇Vベルトの種類と特性

通常よく使用されるものにスタンダードベルトとレッドベルトがあります。スタンダードベルトと比較し、レッドベルトは耐熱・耐摩耗性の高い素材を使用しており高負荷環境での使用に適しています。更に、省エネレッド[®]はベルト底面にノッチ加工を施すことにより、ベルトがプーリに巻き付く力(曲げ応力)を小さくしています。これにより、ベルト曲げ応力によるエネルギー損失が大幅に減少して省エネ効果が得られます。(図1・図2)

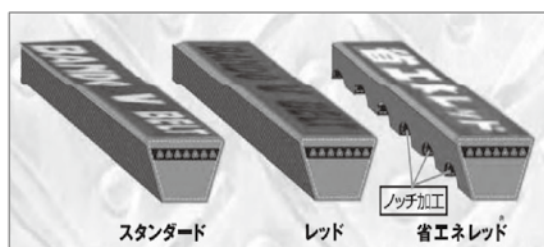


図1. 各種Vベルト

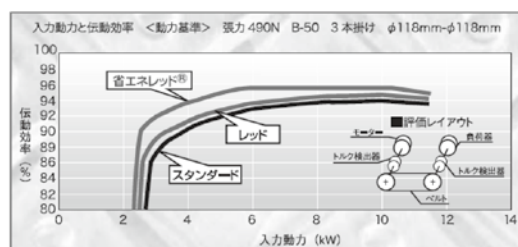


図2. 伝動効率検証結果

〇ベルトの張力管理

ベルトの張力は、Vベルトを使用する上で重要なファクターの一つです。ベルトの張力を適切に管理することで、ベルト本来の伝動能力を発揮することができ、早期破損を未然に防ぐことにもつながります。

Vベルトの取付張力が低い場合、ベルトが適切に動力伝達できず、本来の性能を発揮することができません。では、強めに張れば安心かということでもなく、張力が高すぎる場合はベルトの早期破損に繋がるなどベルトの寿命に影響します。そのため、適正張力の管理が必要となります。

Vベルトは、その構造上、運転時間を重ねるほどプーリへの馴染みがよくなったり、側面摩耗によりベルトがプーリ溝に落ち込んだりすることが原因で、徐々に張力が低下していきます。このため、取付後1日～1週間後に張力測定機器を用いて張力確認を行います。その後、3～6か月程度の間隔で張力の定期確認を実施します。

このとき張力が低下していたらベルトを再び張りなおす必要があります。(図3)

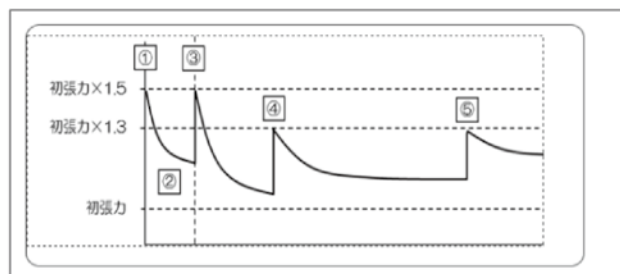


図3. Vベルトの張力管理方法

初張力=適正張力

- ①: ベルト取付時の初期取付張力(初張力×1.5)
- ②: ベルト取付後1日～1週間での馴染みによる初期張力低下
- ③: ベルト張り直し(初張力×1.5)
- ④: ベルト張り直し(初張力×1.3)
- ⑤: 3～6か月スパンでの張り直し(初張力×1.3)

〇省エネ・省メンテベルトシステムの紹介

HFD System[®] (Hyper Flat Drive System)

自律蛇行制御プーリとオートテンションにより、平ベルトで発生する蛇行と張力低下によって引き起こされるスリップを抑制し、平ベルトの高い伝動効率と耐久性を最大限に発揮させる駆動システムです。オートテンションでの張力付与によって、Vベルトで発生していた「張力低下」を自動的に補正できます。(図4・図5・図6 参照)

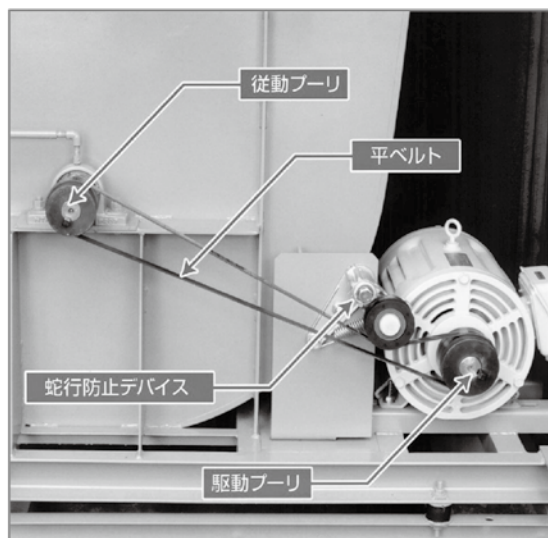


図4. HFD System[®]

HFD System[®]の特徴

・省エネルギー

平ベルトを使用することにより、Vベルトと比較してベルト曲げ応力による損失を大幅に減少することで高伝動・高効率を実現しています。

(図7・図8)

・メンテナンスフリー

オートテンションにより張力を安定維持するため、稼働開始後は張力管理が不要でありメンテナンスフリーが実現できます。図9に示すように、従来Vベルトで必要だったベルト取付初期の張り調整・定期的な張力確認作業が不要になります。

・長寿命

平ベルトは、厚みが薄いためプーリに巻き付いたときの曲げ歪みの影響が小さくなります。また、テンションにより逆曲げで使用しても影響が小さいため、Vベルトに比べ寿命が約3倍になります。

・低振動、低騒音

Vベルトと比較して起動時の騒音や稼働時の摩擦音、更にオートテンションによりベルトスパン間振動音を抑制できるため、静音が求められる環境においても設置可能です。

・新設、既設改造とも対応可能

空調や工場排気など様々な用途で長時間稼働する送風機は、HFD System[®]の導入効果が最も現れ易い機器の一例です。また、既存設備からの置き替えだけでなく、新設でHFD System[®]を搭載した空調設備もあります。詳細は下記サイトの導入事例をご参照ください。

※出典： 製品・技術情報サイト | バンドー化学株式会社
省エネVベルトカタログ | バンドー化学株式会社
HFD System[®]カタログ | バンドー化学株式会社
HFD System[®]導入事例 | バンドー化学株式会社

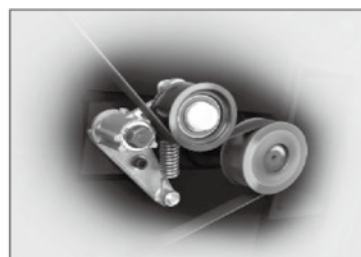


図5. 蛇行防止デバイス + オートテンション

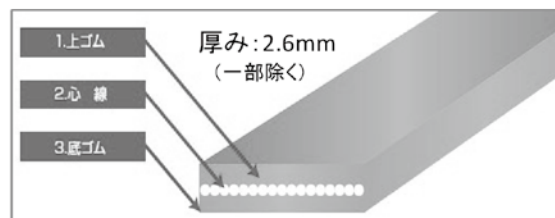


図6. 平ベルト構造

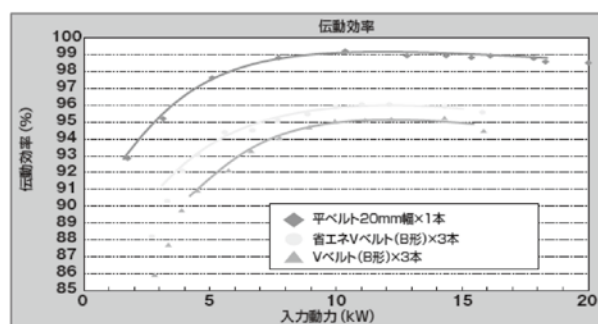


図7. 伝動効率検証結果

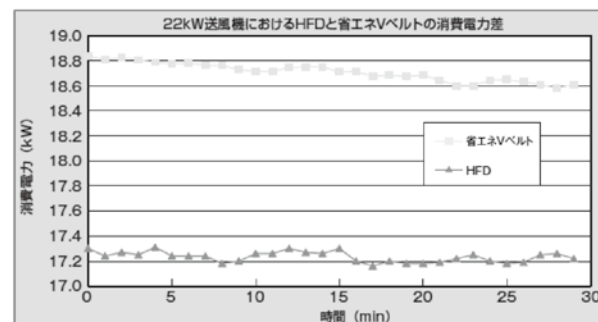


図8. 消費電力の検証結果

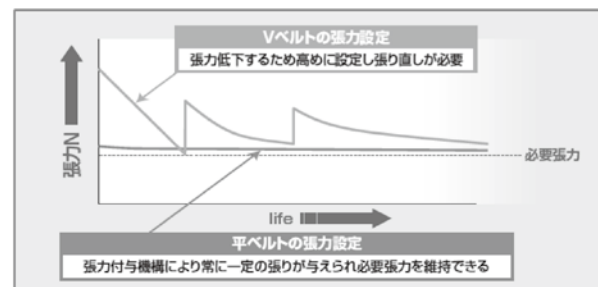


図9. ベルトの張力管理比較

<https://products.bandogrp.com/>

https://products.bandogrp.com/special/HFD_System/

衛生設備ニュース 05

sanitary accommodations news 2025.May

No.044

☐ 機器 ☒ 給水 ☐ 給湯 ☐ 排水
☐ 器具 ☐ 消火 ☐ ガス ☐ 環境 ☐ 他

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

水道におけるPFOS及びPFOAに関する調査結果及び対応事例について

国土交通省と環境省が共同で実施した「水道におけるPFOS及びPFOAに関する調査」のうち、水道事業及び水道用水供給事業^{*1}の結果については下記の記載になります。※国土交通省HPより抜粋

■概要

- ① PFOS及びPFOAの水質検査を実施した事業の数は毎年増加しており、令和2年度から令和6年度（9月30日時点）までに検査を行ったことがある事業数は2,227事業であった。

◆ 調査への回答状況及び水質検査の実施状況

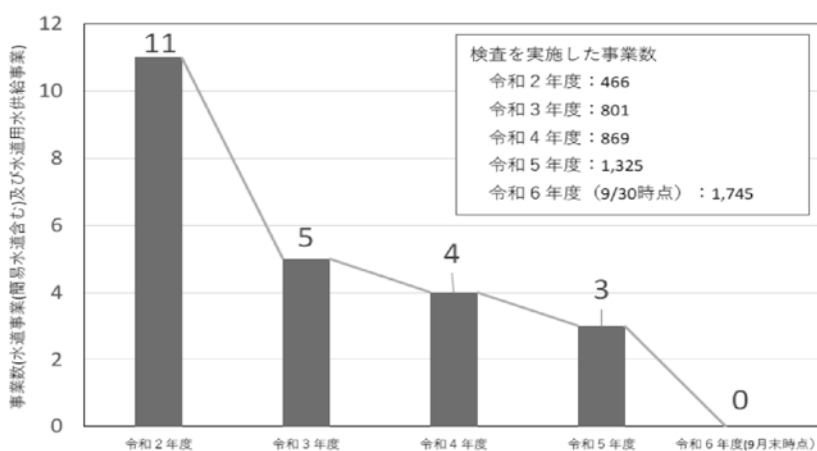
	事業数	回答数		
		回答総数	検査実績 ^{※2}	
			有	無
上水道事業 ^{※3}	1,291	1,291	1,113	178
水道用水供給事業	88	88	83	5
簡易水道事業 ^{※3}	2,376	2,216	1,031	1,185
合計	3,755	3,595	2,227	1,368

※2 令和2年度から令和6年度9月末までの間に水質検査を実施した場合、「有」として計上。

※3 水道事業のうち、「上水道事業」は給水人口が5,000人超である事業、「簡易水道事業」は給水人口が101人以上5,000人以下である事業である。

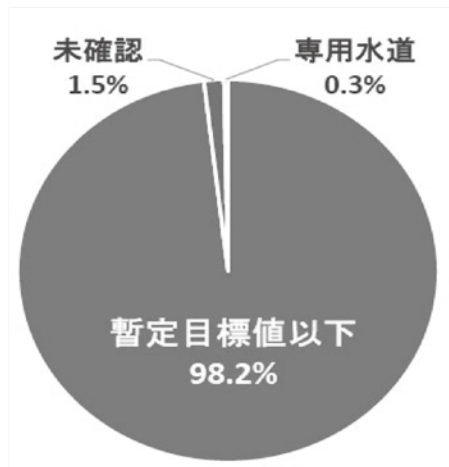
- ② 検査の結果、暫定目標値^{*2}を超過した事業は、令和2年度は11事業ありましたが年々減少し、令和5年度は3事業、令和6年度（9月30日時点）は0事業であった。尚、令和5年度までのいずれかで暫定目標値を超過した全14事業において最新の検査結果では、全て暫定目標値を下回っている。

◆ 年度別 PFOS及びPFOAの暫定目標値を超過した事業数



- ③ 水道の給水人口に対し、今回の調査において暫定目標値以下の水質の水道水が確認されている給水人口の割合は98.2%^{*3}であった。

◆ 暫定目標値以下の水質の水道水が確認されている給水人口割合



- ④ 国土交通省としては、水道においてPFOS及びPF0Aの暫定目標値の超過が確認された場合は、引続き環境省と連携し水道事業者等により適切な対応が速やかに図られる様取り組む。又、専用水道^{*4}の回答結果については、現在集計中のため取りまとめ次第公表する予定である。
- ⑤ 対応事例については国土交通省としては、今後、都道府県や水道事業者等を対象とした本事例集に関する説明会を開催し事例集の周知に努めるなど、水道事業者等への技術的支援等に取り組むことにより、安全な水の供給確保を図る。

■ 注記

- *1 水道事業及び水道用水供給事業：
水道法第3条第2項に規定する水道事業、同条第4項に規定する水道用水供給事業。
いずれも、水道法に基づく国土交通大臣又は都道府県知事の許可が必要であり、主に市町村・都道府県により経営されている。
- *2 PFOS及びPF0Aの暫定目標値：
令和2年度に水質管理目標設定項目に位置づけ、暫定目標値としてPFOS及びPF0Aの合算で50ng/Lを設定。体重50kgの人が水を一生涯にわたって毎日2リットル飲用したとしても、この濃度以下であれば人の健康に悪影響が生じないと考えられる水準を基に設定されたもの。
- *3 残り1.8%は、今回の調査において検査未実施及び未回答の水道事業(受水元の水道用水供給事業の検査結果が暫定目標値以下の事業は除く)のほか、専用水道による給水人口が含まれる。
- *4 専用水道：
水道法第3条第6項に規定する自家用水道等

● 詳細は国土交通省HP等にて確認下さい ●



令和7年度ボウリング大会

団体戦 (株)朝日工業社 優勝

当協会恒例のボウリング大会は令和7年6月25日(水)に心斎橋サンボウルで開催しました。賛助会員を含め26チームでの戦い(2ゲーム)となり、団体戦(チームは1社3名男女不問で結成、女子は1ゲームにつき30点加算)は、(株)朝日工業社が見事優勝しました。個人戦(女子ボーナス点加算)では、(株)朝日工業社の田渕 愛様が優勝しました。



挨拶する木村総務委員長



優勝 (株)朝日工業社

試合結果

◇団体戦

優 勝 (株)朝日工業社
準優勝 須賀工業(株)
第3位 (株)ベルテクノ



準優勝 須賀工業(株)

◇個人戦 (敬称略)

優 勝 田渕 愛:(株)朝日工業社
準優勝 川崎一希:須賀工業(株)
第3位 木原崇志:(株)朝日工業社



第3位 (株)ベルテクノ

◇ハイゲーム賞 (敬称略)

男 性 川崎一希:須賀工業(株)
女 性 田渕 愛:(株)朝日工業社



ハイゲーム賞



個人戦(優勝・準優勝・第3位)

○賛助会員募集のご案内

○今後の主な行事予定

開催日	行事	場所
9月27日	第15回配管技能コンテスト	大阪府立東大阪高等学校 職業技術専門学校
10月7日	安全衛生大会	建設交流館 8階グリーンホール
10月21日,22日,24日	野球大会	スカイランドHARADA 多目的運動広場
11月6日	新技術・新商品説明会及び懇親会 (8月下旬以降、説明者募集予定)	ハービスENTオフィス タワービル9階会議室他
令和8年1月14日	新年交礼会	スイスホテル南海大阪
令和8年2月17日	(一社)日本空調衛生工事業協会 近畿支部会	シティプラザ大阪

[illegible]

2025年



暑中お見舞い申し上げます

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会会員(76社)

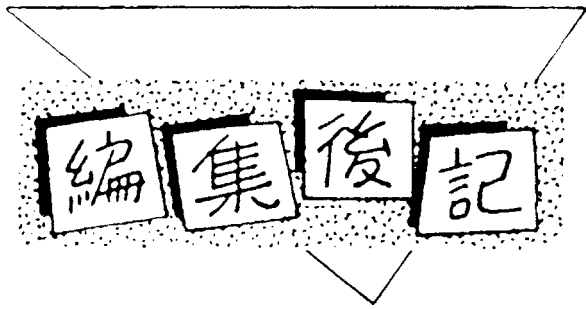
会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
赤井設備工業株式会社	上田 訓司	島設備工業株式会社	井上 暎夫
株式会社朝日工業社大阪支社	三宅 輝彦	主計管工株式会社	中井 主蔵
株式会社上杉工業	上杉 嘉邦	城陽ダイキン空調株式会社	門脇 年治
浦安工業株式会社大阪支店	水野 博史	株式会社城口研究所関西支店	小山 正晃
株式会社江坂設備工業	中村 昭一	新日本空調株式会社大阪支店	上杉 晴一
オーディーエー株式会社	織田 幸子	新菱冷熱工業株式会社西日本事業部	山口 武男
株式会社大阪城口研究所	城口 俊雄	須賀工業株式会社大阪支社	中川 修
鳳工業株式会社	齊藤 伸一	株式会社精研	辻 武寿
奥田商工株式会社	奥田 康雅	株式会社千里技研	山田 正人
影近設備工業株式会社大阪支店	東野 大輔	第一工業株式会社大阪支店	坂下 隆
川崎設備工業株式会社西部支社	国枝 実成	第一設備工業株式会社大阪支店	中村 秀樹
川惣電機工業株式会社	昆沙賀正道	大貴設備株式会社	田窪大五郎
川本工業株式会社大阪支店	井上 修	ダイクウ株式会社	橋本 輝
木村工業株式会社	木村 之彦	大晃設備株式会社	高橋 孝治
協伸工業株式会社	森岡 由智	大成温調株式会社大阪支店	中村 修
株式会社共進社工業所	山内 順二	ダイダン株式会社大阪本社	北村広外志
享和設備株式会社	竹本 和正	大熱工業株式会社	藪本 繁明
クウケン株式会社	杉本 知紀	高砂熱学工業株式会社関西支店	赤松 孝宏
九櫻設備工業株式会社	高安 秀幸	株式会社タカネツ	高木 優
株式会社クドウエンジニアリング	磯崎 博	株式会社竹本設備	竹本 太郎
五建工業株式会社大阪支店	安田 実	田丸産業株式会社	堀田 高志
サノヤス・エンテック株式会社	浅尾 洋光	株式会社テクノ菱和大阪支店	武田 和夫
三機工業株式会社関西支社	勝野 耕治	東洋工業株式会社	谷本賢太郎
三建設備工業株式会社大阪支店	永田 博巳	東洋熱工業株式会社大阪支店	藤原 和明
株式会社三晃空調大阪本店	奥村 未那	株式会社T R U S T	桑原 貴志
三神工業株式会社大阪支店	高谷 俊則	株式会社錦	廣田 典子
三宝電機株式会社	井上 清人	株式会社西原衛生工業所大阪本店	植田 順一
株式会社三冷社西日本支社	大田 勝己	株式会社日設関西支店	長尾 正
株式会社JR西日本テクシアMC事業所	清水 勝	日本管工業株式会社大阪営業所	小野 直人
敷島煖房工業株式会社	土橋 誠二	日本ファシリオ株式会社大阪本店	植谷 信之
四國機械設備株式会社	曾我 幸二	日本メックス株式会社関西支店	立川 雅司

会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
有 限 会 社 原 設 備	原 良一	株 式 会 社 前 田 商 会	前田 裕子
日比谷総合設備株式会社関西支店	嶋村 克久	株 式 会 社 マ サ キ 設 備	正木 規善
株 式 会 社 一 二 三 工 業 所	一二 健夫	丸 住 株 式 会 社	吉田 博子
株 式 会 社 不 二 設 備 工 業 所	水田 幸宏	株 式 会 社 マ ル フ ォ ー ス	田代 一臣
富士電機E&C株式会社西日本支社	辻 郁次	美 和 設 備 工 業 株 式 会 社	栢瀬 秀樹
不 二 熱 学 工 業 株 式 会 社	近藤 康之	柳 生 設 備 株 式 会 社	福地 文雄
株 式 会 社 北 祥	澤村 幸雄	若 林 設 備 工 業 株 式 会 社	若林 豊

賛 助 会 員

(63社)

会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
朝日機器株式会社大阪支店	北 克也	タ カ ラ 通 商 株 式 会 社	渡辺 晃
アズビル株式会社ビルシステムカンパニー関西支社	岩木 清	株式会社多久製作所中日本支店	吉田 智也
アルファ・ラバル株式会社大阪支社	竹次 裕佑	株式会社タブチ大阪特販部	下玉利 誠
安 藤 株 式 会 社	安藤 晴重	テラル株式会社関西支店	小川 浩之
イシグロ株式会社西日本営業本部	松倉 義人	東西化学産業株式会社本社	河野 祐一
因 幡 電 機 産 業 株 式 会 社	山田 剛志	東 テ ク 株 式 会 社 大 阪 支 店	糸満 睦夫
井 下 機 器 株 式 会 社	井下 光泰	T O T O 株 式 会 社 特 販 本 部	土井 賢治
荏 原 実 業 株 式 会 社 関 西 営 業 所	綿谷 龍一	T O T O 関 西 販 売 株 式 会 社	前田 信
株式会社荏原製作所西大阪支店	柳田 弘一	株式会社ニシテック 関西支社	薮川 洋一
株式会社オーケーエム大阪支店	野曾原康夫	ニッケイ株式会社大阪営業所	清水 栄蔵
オ ー ケ ー 器 材 株 式 会 社	山田 進一	日製電機株式会社大阪空調営業所	秦 信宏
株式会社オンダ製作所大阪営業所	石川 辰也	ニ ッ タ 株 式 会 社	鈴木 弘樹
川重冷熱工業株式会社西日本支社	加藤 宏康	日本電技株式会社大阪支店	八木 浩一
株式会社川本製作所大阪支店	山下 哲彦	日本水処理工業株式会社	川西 昌史
キタックスエンジニアリング株式会社大阪本社	西本 智彦	株 式 会 社 日 阪 製 作 所	大森 輝博
株 式 会 社 キ ッ ツ 大 阪 支 社	大屋一比古	日比谷通商株式会社関西支店	芝口 薫
木村工機株式会社大阪営業本部	登尾 公彦	富士機材株式会社関西支店	巻島 史典
協立エアテック株式会社大阪支店	津田 勇	株 式 会 社 扶 洋	横田 好明
空研工業株式会社大阪支店	池田 恒夫	株式会社ベルテクノ大阪支店	和田 修治
株 式 会 社 古 島 大 阪 支 店	宮城 弘幸	北 勢 工 業 株 式 会 社	北山 秀晴
株式会社コスタコーポレーション	白井 敏弘	三菱電機冷熱機器販売株式会社西日本支社	福岡 敬史
三和銅管株式会社大阪営業所	藤田 隆	森松工業株式会社大阪支店	田邊 亮真
ジョンソンコントロールズ株式会社大阪支店	小柳 吉正	株式会社大和バルブ西日本統括支店	小池 弘明
新晃工業株式会社大阪支社	加藤 勉	ヤマトヨ産業株式会社	角野光志朗
株 式 会 社 振 興 社 設 営	楠 幸隆	ヤンマーエネルギーシステム株式会社大阪支社	徳島 久泰
シンテック株式会社大阪営業所	田村 周治	ユアサ商事株式会社関西支社	小西 達朗
新 日 本 美 風 株 式 会 社	荒牧 太郎	株式会社ユニックス大阪営業所	内田 徹
住友商事マシネックス株式会社	才本 幸治	株式会社ヨシタケ大阪営業所	古澤 嘉啓
タイヨージョイント株式会社大阪営業所	後藤亮太郎	株式会社LIXIL 関西設備プロジェクト支店	北古賀寛之
株式会社ダイキアクシス大阪支店	塩崎 浩司	株式会社RYODEN西日本支社	作田 匡志
株 式 会 社 大 和	和田 浩一	リ ン ナ イ 株 式 会 社	岡野 哲明
高 井 水 栓 株 式 会 社	高井 徹		



梅雨という漢字の語源は「梅の熟す時期の雨」という意味など諸説あるようですが、梅雨明けすると一気に夏を迎えることになり、暑さ対策が必要となりました。という状況は何処に行ってしまったのだろうか。

昨年は梅雨を待たずして、5月に前橋市で初めて真夏日が観測され、猛暑日も各地で過去最高の日数を記録しました。今年もその記録を塗り替えるのだろうか。

気候変動がもたらす農産物の作況指数の変化や収穫適地・時期が変わることは、昨今のコメ騒動にも関連し、より深刻に身近に迫って食料自給率という大きな問題につながってきて個々人の行動変容を求められている。

最近の暑さは老若男女を問わず、行動を見直し自己防衛をすることが当たり前になり、働き方までもが大きく変わろうとしている。

これからも、やれるべき課題を少しでも手掛けて進めて行かないと、また記録だけが塗り替えられる事だけは避けなければならない。

(S. M)

最近、体の可動域が急に狭くなり動きにくくなってきた、と感じる事が多くなりました。

5～6年前には出来ていたことが、少しずつ出来なくなっているようです。朝、目が覚めて起き上がる時でも、手を使わなくても起き上がる事が出来ていましたが、最近は少し反動を付けたり、手を使って起きる事が多くなりました。

学生時代のクラブの延長で、未だに先輩方と一緒に月に1回練習をしています。球を投げる時に後ろから眺めていた先輩が、「肩が回ってないで!」とご指摘を受けました。自分の感覚では肩をしっかり回して投げているつもりでしたが、他から見ると一目瞭然のようです。

いつまでも若いころと同じようにはいかない事に、劣化を感じる毎日です。

建物の設備もエアコンから急に異音がしたり、冷えなくなったり等、毎日漠然と使用している機器類に関しても、年数が経つと機器類にはメンテナンスが必要であり、人が見て故障する前に予見できる能力を持つことが、これからの世の中に必要とされるのではないのでしょうか?

(A. H)

AIの進化は、私たちの思考の風景さえ変えつつある。かつては自ら頭から湯気を出しながら悩み、考え抜いた末にようやく答えにたどり着いた。

今では、代わりにAIが“湯気どころか”高熱を発しながら猛烈な速度で思考し続けてくれる。実のところ、この編集後記もその助けを借りた共作だ。判断し、選び、歩むのは人間であることに変わりはないが、湯気をAIに任せる時代になったともいえる。

とはいえ私たちは、そのAIが発した湯気をどう冷却するかを考えるために、また頭から湯気を出してしまう。本末転倒にも映るが、それもまた人間らしさかもしれない。

効率と本質が交差するところに立ちすくみながら、それでも前に進もうとする——まるで禅問答のような現代である。

(M. K)

大 空 衛 第97号

令和7年7月31日発行

編集人 広報委員会

発行人 一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会
〒541-0052

大阪市中央区安土町1丁目7番20号

新トヤマビル3階

Tel 06 (6271) 0175

Fax 06 (6271) 0177

E-mail: osakakueikyo@tenor.ocn.ne.jp

URL <http://daikuei.com>

印 刷 株式会社西川印刷所

